

## 双六岳周辺スキー

2008. 5. 3~6

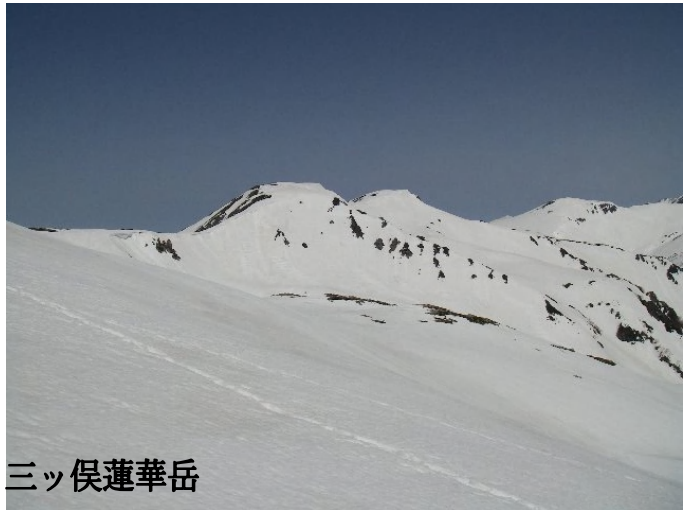
メンバー：L菊地（記）、奥平、釣、山本、熊崎

5月3日（晴れ）

前夜の渋滞で新穂高到着が遅れ、寝不足でのスタートとなった。双六小屋が営業していないせいか登山者の姿は少ない。今回は定着の為、軽量化無視のザックにスキーを括



りつけるとその重さは半端ではない。林道の片隅に残雪が現れ始めた



三ッ俣蓮華岳

所でスキーを履き途切れ途切れの雪を拾いながら進んで行く。ワサビ平小屋を過ぎるとデブリ帯に突入するが、どれもかなり日経っているようで素直に通過出来た。

弓折岳は近そうで遠く、このままのペースでは双六小屋はおろか弓折岳の稜線までも厳しそうなので鏡平で泊まる事にしたが、とても見晴らしの良い場所だった。

5月4日（晴れ）

今日も快晴で申し分ない天気。弓折岳までは標高差300mの登りで、稜線からの展望は良いが強い風が吹いていた。小ピークの続く稜線沿いを行きトラバースに入ると埋まりかけの双六小屋が見えて来た。例年なら多くのシュプールが刻まれテント村が出来ている  
←双六岳稜線を行く





が、今日はテントもシュプールも殆ど無く閑散としている。

今日は三俣蓮華方面に行く予定だったが、時間が無いので小屋に不要な荷物をデポし双六岳に向かう。肩からのゆるい稜線は腐れ雪でスキーでも時々足首まで潜る。頂上からの展望を楽しんだ後はお待ちかねの双六カールの滑走だ。雪質も上々でシュプールの無い広大な斜面からカールへと次々と吸い込まれて行く。次第に谷は狭まるが、振り返ると広いカールに5本のシュプールが刻まれ皆満足気だ。

なだらかな双六谷に降り立つと双六小屋まで標高差170mの登り返しだ。1時間程で小屋に戻るが、まだ日差しが強く暑い。まだ滑り足りないの、双六岳の肩に登り返すと空模様が怪しくなってきた。予報通り明日の天気は悪そうだ。まだシュプールの少ない東斜面を小屋へ

と滑り込んで締めくく  
る。

5月5日(曇り時々雨)

朝から視界は悪く風もあるが、雨はそれ程ではなく、予定通り出発する。双六岳のトラバースを終了した所まで行ったが、稜線付近は厚い雲に覆われ続け、段々モチベーションも下がり天気も更に悪く

↑↓双六カール



なりそうなので、稜線から縦沢に降りる事にした。余り視界が無いので短く切って、お互いがばらけ無い様に注意しながら高度を下げる。こちらでもデブリもシュプールも無く、とても綺麗な雪面で晴れていれば気持ち良く滑れそうだ。弥助谷出合が近づくとガスも消えてきたが、稜線は相変わらず雲の中。谷は所々雪が割れ水流が現れ、右岸の斜面をトラバースして行く。程なくして双六小屋に突き上げるモミ沢に入る。傾斜



縦沢

は概ね緩くシールで登りやすい。標高が上がるにつれまた雨が降り出す。昼ごろ小屋に戻りそのまま沈殿。

5月3日 新穂高駐車場  
7:35~ワサビ平小屋9:  
55・10:20~鏡平1  
5:00

5月4日 鏡平5:50~  
7:10・7:25~双六小  
屋9:05・9:45~双六  
岳11:05・11:40~  
双六谷12:10・12:2  
0~双六小屋13:15

5月5日 双六小屋6:10  
~トラバス終了点7:15・7:  
35~弥助沢出合8:25・8:5  
0・モミ沢出合9:00・  
9:10~双六小屋1  
0:45

5月6日 双六小屋6:  
50~スゴ乗越9:50  
~ワサビ平小屋12:0  
0~新穂高温泉13:3  
5

地形図：笠ヶ岳、三ッ俣  
蓮華岳

←弥助谷

お疲れ様~(^o^)/



5月6日（晴れ）

朝から快晴。荷物をまとめ双六谷に滑り込むがカリカリバーンで楽しくない。大ノマ乗越からは適度に雪も緩み、荷物は重いが思い思いに最後の斜面を楽しむ。林道に出ると更に雪解けが進んでいたが、林道隅の雪を拾いながらしつこく滑る。

コースタイム：

